

# 令和8年産 てんたかく栽培こよみ

## 目標収量構成要素

収量構成	目標
10a当たり収量	600kg
m <sup>2</sup> 当たり穂数	500本
一穂粒数	60粒
m <sup>2</sup> 当たり粒数	30,000粒
登熟歩合	85%
玄米千粒重	23.5g

最高茎数  
650本/m<sup>2</sup>

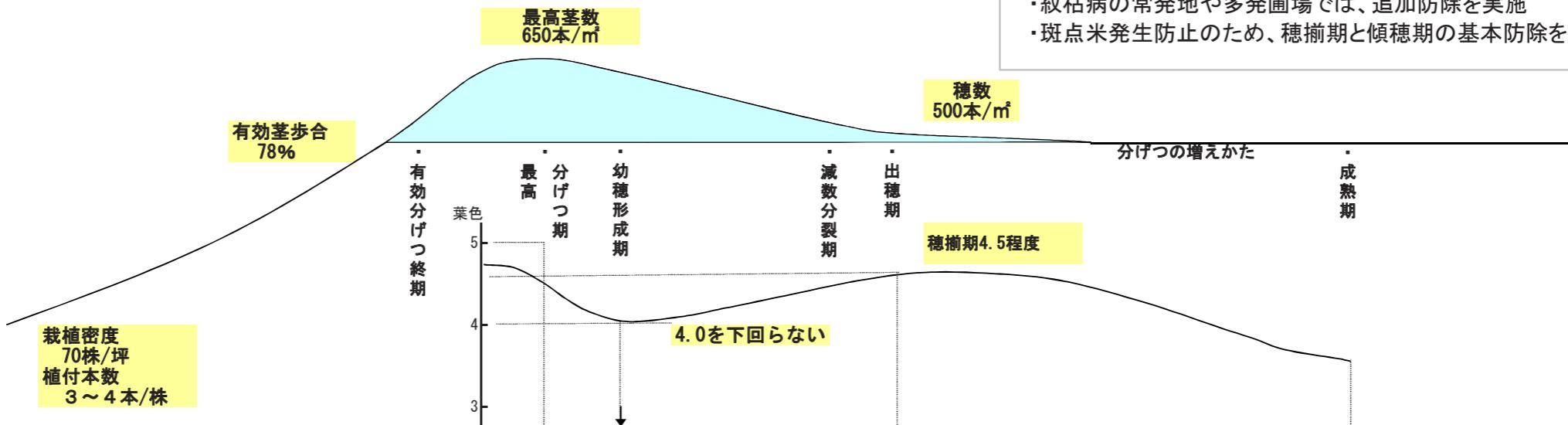
## 収量確保の栽培のポイント

~m<sup>2</sup>当たり粒数30,000粒へ誘導~

- 田植時期の目安は、5月初旬
- 施肥量は、地力に応じて過剰とならないように基準量を遵守
- 植付株数は、坪当たり70株とし、良質の茎を早期に確保
- 幼穂形成期頃の葉色は、4.0を下回らないように間断かん水を徹底
- 紋枯病の常発地や多発圃場では、追加防除を実施
- 斑点米発生防止のため、穗揃期と傾穂期の基本防除を確実に実施

## 「エコ早生専用」施肥量の目安

前作	減肥	土壌区分	施肥量 (kg/10a)
水稻あと	-	粘質土	30~35
		壤質・砂質土	32~37
大豆あと 野菜あと	水稻あとの 35%減	粘質土	19~22
		壤質・砂質土	21~24
大麦あと	水稻あとの 25%減	粘質土	22~25
		壤質・砂質土	24~27



栽培管理のポイント	畦塗り	活力を高め、無駄な茎を抑える	スムーズな収穫作業に向けて地固めを行う	出穂後20日間は湛水状態を保つ	刈取り予定日の5~7日前まで間断かん水する
	育苗ハウスは25℃以下になるよう管理する	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	穀の黄化率85~90%程度で適期に刈取り、適正な乾燥速度と仕上水分
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後1ヶ月までに溝掘りを行う	基本防除2回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	十分に浸種して芽出しを確実に行う	活力を高め、無駄な茎を抑える	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後1ヶ月までに溝掘りを行う	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	育苗ハウスは25℃以下になるよう管理する	活力を高め、無駄な茎を抑える	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや深水として活着を早める	出穂後10日以上あけない	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕	田植後はやや深水として活着を早める	基本防除1回目 傾穂期	刈取りは事前に入水する	刈り遅れによる胴割米や過乾燥米の発生を防止
	播種量は乾穀一箱当たり120g	田植後はやや			